

作成日 2016年 6月 1日

改訂日 2024年 1月 26日

## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

化学品の名称	サクシオンリンス
供給者の会社名称	株式会社 東京技研
住 所	東京都世田谷区玉堤 1-25-13
電話番号	03-3703-5581
FAX 番号	03-3705-1760
緊急連絡電話番号	03-3703-5581
推奨用途	セントラルサクシオン用塩素除去剤
使用上の制限	他の用途に使用しないこと
整理番号	TGYA1-07A-24005

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	分類できない又は、区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 1 A
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性／全身毒性（単回曝露）	分類できない
（反復曝露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境急性毒性	分類できない
水生環境慢性毒性	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

#### GHSラベル要素

## 絵表示



注意喚起語  
危険有害性情報

警告  
飲み込むと有害  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
発がんのおそれ

## 注意書き

### [安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護マスク等の適切な保護具を着用すること。  
取扱い後は手指をよく洗うこと。

### [応急措置]

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当を受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受けること。  
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
組成及び成分情報

混合物  
亜硫酸ナトリウム、香料、色素、その他

## 4. 応急措置

吸入した場合

ミストを吸い込んだ時は、直ちに新鮮な空気の風通しの良い場所へ移動し、鼻をかんだり、うがいをする。何らかの異状を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに流水で洗い流す。衣類や靴などに付いた時は、直ちに脱ぎ皮膚を流水でよく洗い流す。何らかの異状を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。

眼に入った場合

直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すし、洗浄を続ける。何らかの異状を感じた場合は直ちに医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに口の中を洗浄し、意識がある場合はコップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。但し、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。

いずれの場合も、医師への受診時には製品またはSDSを持参する。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用消火薬剤、霧状水、二酸化炭素、乾燥砂
使ってはならない消火剤	棒状水
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行なう。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備等に散水して冷却する。消火の為の放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないように適切な処置を行なう。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具（手袋、マスク、メガネ等）を着用する。燃焼ガスには亜硫酸ガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業には必ず保護具（手袋、マスク、メガネ等）を着用する。 多量の場合は人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
除去方法	少量の場合、吸着剤（土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。大量の水で洗い流す。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから、ドラム等に回収する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに、消火剤を準備する。 床面に漏れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 火花を発生しない安全な道具を使用する。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
注意事項	火気厳禁。眼および皮膚への接触を避ける。 強酸化剤との接触に注意する。
安全取り扱い注意事項	作業場の換気を十分に行なう。

保護メガネ、保護手袋等の適切な保護具を着用する。  
取り扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

#### 保管

適切な保管条件

火気厳禁。通気の良い場所で容器を密閉して保管する。

安全な包装容器材料

ポリエチレン、ポリプロピレン、硬質塩化ビニル

### 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度

設定されていない

許容濃度

設定されていない

保護具

呼吸器用の保護具

通常の作業時には特に必要なし

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

ゴーグル型または全面保護メガネを着用する。

皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣

### 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

青色透明

臭い

香料臭

沸点又は初留点及び沸点範囲

情報なし

可燃性

情報なし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

情報なし

引火点

情報なし

自然発火点

情報なし

分解温度

情報なし

pH

12.0～13.0（原液/25℃、製造時）

動粘性率

情報なし

蒸気圧

情報なし

密度及び／又は相対密度

情報なし

相対ガス密度

情報なし

粒子特性

情報なし

### 10. 安定性及び反応性

安定性

通常の使用条件下では、安定である。

経時変化により浮遊物や沈殿が発生する場合がある。

反応性

通常の使用条件下では、危険な反応を生じるおそれはない。

避けるべき条件

熱、日光、強い酸化剤／強酸性物との接触

危険有害な分解生成物

硫黄酸化物、窒素酸化物。

#### 1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：気体）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	区分 1 A
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

#### 1 2. 環境影響情報

水性環境急性有害性（急性）	情報なし
水性環境急性有害性（慢性）	情報なし
生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

#### 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	多量の本製品を廃棄する場合には、産業廃棄物として、事業者自らが処理するか、知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくはその処理を行なっている地方公共団体に委託して処理すること。
汚染容器及び包装	使い終わった容器は、残留物の有無を確かめた上で、水でよく洗ってから各自治体の指定する方法で処理をすること。

#### 1 4. 輸送上の注意

国際規制	航空輸送は ICAO/IATA および海上輸送は IMDG の規則に従う。
国連番号	3253
指針番号	154
国内規制	航空輸送 航空法に定められている運送方法に従う。

海洋汚染物質  
安全対策

海上規制 船舶安全法に定められている運送方法に従う。  
陸上輸送 消防法に定められている運送方法に従う。  
亜硫酸ナトリウム（25%以下）  
運搬に際しては、容器に漏れないことを確かめた上で、転倒、  
落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう  
こと。

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法	該当しない
化学物質管理促進法（P R T R法）	該当しない
消防法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
危険物船舶輸送及び貯蔵規則	該当しない
海洋汚染及び海上火災の防止に関する法律	該当する
	施行令別表第1 Y類物質 亜硫酸ナトリウム（25%以下）

#### 16. その他の情報

引用文献	JIS Z 7252 : 2019/GHSに基づく化学品の分類方法 JIS Z 7253 : 2019/GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 14705 の化学商品 [化学工業日報社] 化学品安全管理データブック [化学工業日報社] 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS） [化学工業日報社] 家庭用消費者製品におけるGHS実施ガイダンス [日本石鹼洗剤工業会]
------	--

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意してください。  
記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも完全性・安全性や信憑性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。当製品安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。